無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(ム05)

目　　的　無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成　　果　1．韓国との交流事業では、韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流の一環として、2017（平成29）年10月24日～11月10日の間、国立無形遺産院の林采石研究員を受け入れ、日本所在の韓国無形文化遺産関連資料に関する共同調査を実施した。調査は主に東京文化財研究所・東京藝術大学・国会図書館の所蔵資料を対象とし、特に植民地時代の朝鮮半島出身の美術工芸作家に関連した文献・カタログ等の調査を実施した。その成果は11月10日の成果発表会（於：本研究所）において発表された。

ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会の様子

2．無形文化遺産分野の国際的情報収集では、ユネスコ無形文化遺産条約第12回政府間委員会（開催国韓国：2017（平成29）年12月4日～9日）に3名のスタッフ（石村・前原・二神）を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。特に日本国政府代表団の発言に際し、「無形文化遺産と防災」に関連した助言を行い、本研究所の研究成果の発信につながった。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第12号において「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。

3．アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）が実施する事業「アジア太平洋地域における無形文化遺産の防災」に協力し、同センター連携研究員の石村が2017（平成29）年9月23日～10月3日にかけてフィジー、2018（平成30）年1月24日～2月1日にかけてフィリピンにおける現地調査にそれぞれ参加した。

論　文・Tomo Ishimura, Would inscription on UNESCO's List of Intangible Cultural Heritage contribute to the sustainability of intangible cultural heritage?: Cases of "Mibu no Hana Taue" and "Ojiya-chijimi, Echigo-jofu". *Proceedings of the International Symposium on Global Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO*, pp. 80-86. Center for Global Studies（CGC）, Seijo University and International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region（IRCI）. 17.11

・Tomo Ishimura, Status of UNESCO Conventions related to cultural heritage protection in Oceania. *People and Culture in Oceania* 33: 73-86. 18.3

・二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』12　pp.1-21　18.3

発　表・Tomo Ishimura, Intangible cultural heritage and the protection system related to religion in Japan. Symposium on Cultural Heritage and Religion in East Asia. Academia Sinica, Taipei. 18.1.8-9

研究組織　○飯島満、久保田裕道、石村智、前原恵美、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、二神葉子（文化財情報資料部）、松山直子、神野知恵（以上、客員研究員）

アジア諸国等文化遺産保存修復協力〔コ02〕

目　的　東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存・修復及び管理・活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成　果
1．南アジア古代都市・建築研究会「東南アジアの古代都市を考える」「アンコールおよびバガン王宮の建築を探る」の開催（2018（平成30）年1月19・20日）。カンボジア・オーストラリアより考古学専門家各1名を招聘（2018（平成30）年1月17日～23日）
2．カンボジア・アンコール・タネイ寺院保存整備計画策定支援等
ア）考古発掘（東参道及びテラス遺構を発見）、建造物リスクマッピング等の作業を実施（2017（平成29）年7月15日～31日、11月27日～12月11日、2018（平成30）年3月7日～23日派遣）
イ）アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合及び総会での報告（2017（平成29）年6月19日～24日、12月12日～16日派遣）
3．イラン文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業
ア）エスファハーンにおける「歴史的木造建造物及び木製文化財の保存に関する現地ワークショップ」の開催（2017（平成29）年4月15日～21日派遣）
イ）「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」の実施。同研究所及び同国国立博物館より各1名を招聘（2017（平成29）年10月29日～11月5日）
4．アルメニアにおける「染織文化遺産に関する保存修復研修」の実施（2017（平成29）年9月11日～20日派遣）
5．ブータンにおける「ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ」の開催及び関連調査の実施（2018（平成30）年3月8日～15日派遣）
6．インド・デリーで開催された第19回イコモス総会・学術シンポジウムに参加し、わが国のヘリテージマネージャ制度に関して発表（2017（平成29）年12月8日～17日派遣）
7．ネパールの地震被災文化遺産保護に関する技術支援（外部資金事業との連携）
カトマンズ・ハヌマンドカ王宮アガンチェン寺ほか修復工事に伴う建築学的調査等（2018（平成30）年3月24日～30日派遣）
8．NPO法人南アジア文化遺産センターとセミナー「インドにおける文化遺産保護と最新のインダス文明研究」を共催（2017（平成29）年9月26日）

論　文・安倍雅史「シリア紛争と文化遺産」『アジア太平洋研究』　pp.1-12　18.3
発　表・Masahiko TOMODA et al.: “Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple and Progress of the Archaeological Investigation” The 29th Technical Session of ICC-Angkor, Siem Reap, Cambodia 17.12.13　ほか5件
刊行物・『Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects』TNRICP, 17.8
・『考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築』東京文化財研究所　18.3
・『アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成29年度成果報告書』東京文化財研究所　18.3

研究組織　○友田正彦、安倍雅史、山田大樹、マルティネス・アレハンドロ、間舎裕生、北山奈央子、荒木晶（以上、文化遺産国際協力センター）、亀井伸雄（所長）、佐野千絵、小峰幸夫（保存科学研究センター）、石井美恵、呂俊民、古田嶋智子（以上、客員研究員）

保存修復技術の国際的応用に関する研究（コ03）

目　的　文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

成　果　1．イタリア中部地震における壁画を有する被災建造物に関する調査（2017（平成29）年4月19日～28日）

2．ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究

ア）煉瓦造寺院（Me-taw-ya寺院）の外壁調査と保存修復方法の研究（2017（平成29）年7月7日～31日）（2018（平成30）年1月23日～2月13日）

イ）バガンでの「ミャンマー宗教・文化省主催　第10回バガン遺跡の地震被害に関する専門家会議」への出席（2017（平成29）年7月27日）

ウ）考古国立博物館局バガン支局での合同会議への出席（2017（平成29）年7月28日）

エ）パガン王朝期における壁画技法と図像学に関する調査（2017（平成29）年7月10日～22日）（2018（平成30）年1月23日～2月3日）

Me-taw-ya（No.1205）寺院

震災による被災箇所の処置風景

発　表・Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti：A Report on the Previous Survey at Me-taw-ya(No.1205) Temple, The 10th Expert Meeting on Earthquake Damage to the Bagan Archaeological Site 17.7.27

・Maria Letizia Amadori, Daniele Angellotto, Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti, Paola Fermo, Francesco Maria Mini, Valentina Raspugli：Preliminar Scientific Investigations on Constitutive Materials from temple n.1205, Bagan Valley（Myanmar）. TECHNART 2017 -Non-destructive and microanalytical techniques in art and cultural heritage 17.5.2-6

・鴨原由美ほか「ミャンマー・バガン遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究ー壁画を構成する材料調査と傷みの原因ー」文化財保存修復学会第39回大会　金沢歌劇座　17.7.1-2

刊行物・『A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar』東京文化財研究所　18.3

研究組織　○加藤雅人、前川佳文、増渕麻里耶（以上、文化遺産国際協力センター）、鴨原由美（保存科学研究センター）

在外日本古美術品保存修復協力事業（コ04）

目　　的　日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、特殊な条件にある海外作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、結果を公開、共有する。

成　　果　1．作品修復を行った。

ア）クラクフ国立博物館（ポーランド）所蔵　宮川長春筆「遊女と禿図」1幅
イ）クラクフ国立博物館（ポーランド）所蔵　中林竹洞筆「瀑布渓流図」1幅
ウ）クラクフ国立博物館（ポーランド）所蔵　狩野中信筆「月下秋景図」1幅
以上3件、修復完了
エ）ナショナルギャラリーオブビクトリア（オーストラリア）所蔵　「親鸞聖人絵伝」4幅
オ）ナショナルギャラリーオブビクトリア（オーストラリア）所蔵　佐々木泉玄筆「般若図」1幅
カ）インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双
キ）インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」2幅
ク）インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　雲谷等顔筆「煙寺晩鐘図・平沙落雁図」2幅
以上5件、修復中

2．調査を行った。

ア）国家評議会ハバナ市歴史事務所他（キューバ）、日本文化財の所在及びその保存に係る現況・支援ニーズ等の調査（2017（平成29）年6月5日～10日）
イ）グラッシ博物館・民俗学館（ドイツ）、絵画調査（2018（平成30）年3月25日～28日）

3．研究を行った。

ア）ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品の共同研究事業
イ）修復技法及び材料に関する基礎研究

絵画作品修復

調査風景（キューバ）

刊行物・『ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品共同研究事業報告書　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶 –The Birdcage Vase–』東京文化財研究所　17.11

研究組織　○加藤雅人、中山俊介、元喜載、小田桃子、橋本広美、五木田まきは、境野飛鳥、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、藤井佑果（保存科学研究センター）、江村知子（文化財情報資料部）、林昌宏、小田切真梨（以上、研究支援推進部）、杉山恵助（客員研究員）

国際研修（コ05）

目　的　近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業で、研修を国内外において政府間機関ICCROMや各国機関と共催、あるいは各国の関連機関の協力を得て開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

成　果　1．ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復（Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk）」を開催した。

主催：東京文化財研究所、会場：ベルリン国立博物館アジア美術館（ベルリン・ドイツ）

ア）基礎編「日本の紙本・絹本文化財」、2017（平成29）年7月5日～7日、参加者：11名（アイルランド、イタリア、ドイツ、バチカン市国、ハンガリー、ベルギー、ポーランド）、その他オブザーバー3名。

イ）応用編「屏風の修復」、2017（平成29）年7月10日～14日、参加者：8名（イギリス、イタリア、スペイン、デンマーク、ドイツ、ポーランド）、その他オブザーバー2名。

2．ワークショップ「染織品の保存と修復（Workshops on Conservation of Japanese Textile）」を開催した。

主催：東京文化財研究所・国立台湾師範大学、会場：国立台湾師範大学（台北・台湾）

ア）基礎編「日本の染織品文化財」、2017（平成29）年8月9日～11日、参加者：10名（アメリカ、韓国、シンガポール、セルビア、タイ、台湾、フィリピン、ラオス）、その他オブザーバー2名。

イ）応用編「日本の染織品の修復」、2017（平成29）年8月14日～18日、参加者：6名（アメリカ、シンガポール、セルビア、タイ、台湾、ラオス）、その他オブザーバー3名。

3．国際研修「紙の保存と修復（International Course on Conservation of Japanese Paper）」を開催した。

主催：東京文化財研究所・ICCROM、会場：東京文化財研究所他、2017（平成29）年8月28日～9月15日、参加者：10名（アメリカ、アルゼンチン、イスラエル、オーストラリア、ギリシャ、中国、チェコ、フィリピン、ラトビア）。

4．ワークショップ「漆工品の保存と修復（Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects）」の評価を行った。

アンケート、回答数：29。評価セミナー、東京文化財研究所、2017（平成29）年11月8日～9日、参加者：4名（アメリカ、ギリシャ、ドイツ、ベルギー）。

5．国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復（Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina）」の評価を行った。

アンケート、回答数：50。評価会議、CNCPC-INAH（メキシコシティ・メキシコ）、2018（平成30）年2月7日。

刊行物・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』東京文化財研究所　18.3
・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』東京文化財研究所　18.3
・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価　2017』東京文化財研究所　18.3
・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価　2017』東京文化財研究所　18.3

研究組織　○加藤雅人、中山俊介、後藤里架、五木田まきは、小田桃子、元喜載（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存科学研究センター）、菊池理予（無形文化遺産部）、林昌宏、山﨑泉美、小田切真梨、荒木晶（以上、研究支援推進部）、石井美恵、大河原典子、杉山恵助（以上、客員研究員）